

[制作記録]

スペイン・バレンシアにおける研究活動 [Digital Media 1.0]展

遠藤 研二

2008年4月にスペイン・バレンシアにて行われ、自身が研究活動として参加した[Digital Media 1.0]展について報告します。

この展覧会は2006年に本学共同研究で実施した《「SHAIHENS」-海外でのグループ展での試み》と関連して、スペイン側から参加依頼が来たことに起因します。全世界より約30カ国120人が参加し、80人ほどが展覧会場を訪れ、搬入作業をするという非常に大規模な展覧会でした。過去私自身、このような大規模展覧会に参加したことはありません。日本からは私のほか、本学油画科教員の鈴木浩之氏および神戸芸術工科大学の林勇氣氏の3名が参加しました。この企画はバレンシアのギャラリー La Sala Naranjaのオーナーであるトニーカルデロン氏によるもので、運営スタッフの人数も15人ほどおりました。会場はバレンシアが誇る歴史的建造物で1500年代から同地に存在する、パティオという中庭をもった典型的スペイン様式の建物です。すでに自重で少し傾いているのですが手入れの行き届いた素晴らしい建築で、現在は名門国立バレンシア大学の施設の一部となっています。写真でおわかりかと思いますが、建物内部の面積はかなり広くて部屋数も多く、カトリック教会も併設されており、現在はバレンシア大学図書館として使用されています。場所は市の中心部で非常にアクセスが良い場所であり、多くの市民が訪れる場所でもあります。

私と鈴木先生は市内のホテルに長期滞在しました。ホテル代金は後にバレンシア大学が支払ってくれましたが、このホテル何とシャワーとトイレがついて一泊15ユーロ(2千円弱)という、欧州先進国では考えられない破格の値段でした。市場にも近く、非常に清潔で快適な宿でした。滞在制作は宿泊施設

が重要ですが、その点かなり満足のいくホテルだと思います。

私は一足先の2月に、作品が保存されているアイランド・コーク市のNational Sculpture Factoryへ赴き、自身の作品を梱包しバレンシアへ輸送する準備をしました。一度日本へ帰国して大学入試業務を終え、再び欧州へ渡るという過密スケジュールでしたが、1年を通して温暖なバレンシアでの搬入作業はことのほか快適で、順調にセッティングを進めることができました。今回カルデロン氏は私に場所を指定してきました。もちろん私の作品を観た上で考えてのことです。私自身こういった国宝クラスの歴史的建造物での作品展示は初めてですから、そういった意味では施工に非常に気を遣いました。

会場にいた多くの仲間たちの協力の下、作品搬入を終えることができ、無事オープニングを迎えることができました。オープニングイベントは非常に多くの人々が来場し、数多くのイベントが用意され、大盛況のうちに終了しました。

搬出作業は彼らスペイン人達がやってくれたそうで、私の作品は現在でもバレンシア郊外の小さな街の倉庫に静かに眠っているそうです。(所在は定かではありませんが・・・)

大規模国際展覧会という重要な経験を積むことができたことは自分の研究活動にとって非常にプラスになったと思います。今後も精進していきたいと思っています。

(えんどう・けんじ 共通造形センター/
ミクストメディア)

